

日本学術会議第二部会（第24期・第5回）議事要旨

日 時：平成31年4月24日（水）15:00～16:30

平成31年4月25日（木）10:00～12:00

会 場：日本学術会議6-A(1)、(2)会議室

出席者：（敬称略）

（53名）

東、秋葉、天谷、石川、磯部、今井、巖佐、市川、池田、遠藤、大杉、岡部、小川、小田切、片田、神尾、神谷、神奈木、菊池、熊谷、小安、小松、佐治、城石、澁澤、丹沢、武内、武田、多久和、丹下、高井、戸田、名越、西村いくこ、西村理行、仁科、平井、古谷、寶金、眞鍋、松本、松田、水口、三村、光富、宮地、向井、村川、森、望月、安村、山脇、吉岡
各会員

（事務局：船坂、三神、勝間田）

開会：事務局が定足数を確認し、開会した。

議事概要

1. 前回議事要旨について

平成30年10月3日、4日開催の第二部会の議事要旨（案）（資料1）が諮られ、承認された。

2. 分野別委員会からの報告（資料2）

基礎生物学委員会（報告者：城石）、統合生物学委員会（巖佐）、農学委員会（大杉）、食料科学委員会（澁澤）、基礎医学委員会（岡部）、臨床医学委員会（神尾）、健康・生活科学委員会（片田）、歯学委員会（丹沢）、薬学委員会（望月）、環境学委員会（武内）から、前回の部会以降の活動状況（シンポジウム開催や提言等（提言3件、報告1件）の発出の実施や企画）について報告があった。臨床医学委員会から、臨床研究法の施行により臨床現場での観察研究が著しく抑制され、臨床研究の阻害要因となっている旨の説明があり、日本医学会連合と連携して学術会議から緊急声明等を発出できないかとの要望が有り、石川部長が対応することとなった。

また、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会（平井）は、科学者委員会男女共同参画分科会とシンポジウム「医療界における男女共同参画の推進と課題」を10月に開催した旨報告があった。

3. 各幹事会付置委員会からの報告について（資料2、3、4、5、参考資料4）

○地方学術会議委員会（報告者：武内）

昨年度は京都と北海道で開催、今後は、年1回開催の方針が確定し、今年度は富山で開催される。地域のリーダー、連携会員、大学教員等の参加を得て開催される。

○日本の展望2020検討委員会（石川）

総論試案と各論で記載する項目案が提示され、読者の議論を喚起する内容としたい旨、説明があった。

○財務委員会（石川）

昨年度、予算の枯渇により分科会等での審議に支障が生じたことから、今年度はより計画的な予算執行が行われるように方針が決定された。それに即して、第二部会予算執行方針（参考資料4）を提案した旨、説明があり、承認された。

4. 各機能別委員会からの報告について（資料2、6、7、8）

○科学者委員会（武田）

男女共同参画分科会（報告者：熊谷）、学術体制分科会（武田）、学協会連携分科会（望月）、研究計画・研究資金検討分科会（武田）、学術と教育分科会（平井）、ゲノム編集技術に関する分科会（武田）、研究評価分科会（武田）から活動状況について報告があった。ゲノム編集に関して、「ゲノム編集による子ども」の誕生についての日本学術会議幹事会声明を和文と英文で緊急発出したこと、学術会議に対してヒトゲノム編集に関する国際会議への代表派遣依頼があったこと、政府の法規制の動きに合わせて分科会でも法規制の在り方について検討を進める旨の報告があった（資料6）。

○科学と社会委員会（平井）

課題別審議等査読分科会、市民と科学の対話分科会（説明者：平井）の活動状況について報告があった。市民と科学の対話分科会では、文科省等と連携し、また東京以外での開催も進める旨、説明があった。

○国際委員会（武内）

国際会議主催等検討分科会、アジア学術会議等分科会、日本・カナダ女性研究者交流分科会、Gサイエンス学術会議分科会、ISC等分科会、国際対応戦略立案分科会、フューチャー・アースの国際的展開対応分科会、科学者に関する国際人権対応分科会、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2018等分科会（説明者：武内）から活動状況について報告があった。国際会議主催等検討分科会から、これまで国際会議の主催に関する申請は、開催の3年前としていたが、未熟な計画段階の申請が多いことから、開催の2年前に変更した旨、説明があった。ISC等分科会から、理事の推薦を検討している旨の説明があった。

○CSTIで議論されている「基礎研究力強化に向けて」についての報告と討論

学術体制分科会の委員でもある小安会員より、資料8にもとづき、CSTIの要請にもとづ

き、自身が2018年12月13日開催 CSTIの席上で行った「基礎研究力強化」に関する意見陳述の報告に続き、意見交換が行われた。特に以下について意見が出された。

若手の独立の意義、大学院生への経済支援、コアファシリティの充実（メンテナンスのための技術職員を含めた形）、国際化の現状、大型研究費の在り方、科研費全種目の基金化、望まれる支援の形態の分野による違い、など。

5. 第24期課題別委員会（分野横断的な課題候補）について（資料2, 9, 10, 11, 12）

○防災学術連携委員会（武内）

国内におけるステークホルダーの連携を目指しており、災害発生時に学会会議がシンポジウムなどで迅速に対応している。

二部の参画のあり方について、医歯学系や看護系の活動は二次災害の拡大防止には役立つことから、この分野の課題を検討課題として申し入れることとした。

○科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会（武内）

国際的な連携（特にアジア）を行っており、国際会議に代表を派遣している。

○フューチャー・アースの推薦と連携に関する委員会 資料9（武内）

フューチャー・アースは大きな転換期を迎えている。気候変動、SDGsに貢献できることを示したい。二部としての貢献できる分野は、生態学、生物多様性でもあることから、統合生物学委員会で議論を進める（巖佐）。

○自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会（澁澤） 資料9

現在、technology rich, application poorの状況である。近日中にシンポジウム開催予定。

自動運転技術は、農業への展開、高齢化社会においても（車だけではなく車椅子など）重要である。このような視点の議論も求めたい。また、認知障害に関する包括的検討委員会との連携もあり得る。

○人口縮小社会における問題解決のための検討委員会

報告なし

○人口縮小社会における動物管理のあり方の検討に関する委員会 資料9（澁澤）

環境省からの諮問を受けて設置された委員会。科学的野生動物の管理を議論している。シンポジウムは開催済み（2019年2月9日）。6月までに提言。兵庫県での取組みが、人材育成、研究のよいモデルとなっている（兵庫県森林動物研究センター、兵庫県立大学）。

○認知障害に関する包括的検討委員会 資料10（寶金）

厚生労働省が提示する認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に対する、学術からの提言を目的とする。特により広く存在する軽症認知障害が社会に与える影響を議論している。法律は年内に出る可能性があり、その動きに合わせて審議を進めている。

石川部長より、問題提起として「日本の展望2020」への寄稿依頼があった。

薬の影響による認知機能の低下に関する問題も議論してほしい、との意見が出された（望月）。

○科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会（資料 11、神尾）

スポーツ庁長官から審議依頼があり、2月に立ち上げ、3回済み。「スポーツ」の定義から効用などエビデンスに基づく議論が必要。また、蔓延するスポーツ界での暴力やハラスメントも審議の対象。

○オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 p. 49（資料 9、澁澤）

CSTI が掲げ、国の科学技術基本計画にもあるオープンサイエンスの在り方を議論。財政的に厳しい大学や研究機関の環境の下で、学术界としてどのように進めるかを審議中。個別事象、人文社会、医療、海洋、農業等々。中国の動きが急（農業、ゲノム情報を集中あり）なでも話題に上がっている。7月を目処に提言を発出する予定。

6. その他

(1) 石川部長から、第二部会員の欠員 2 名の補充手続きを進めている旨、報告があった。

(2) 学協会連携アンケートの結果報告 参考資料 1（丹下）

・アンケートより、多くの学協会は、シンポジウム、大型施設計画の策定、提言発出などで、日本学術会議と連携の必要性は感じている。ただし、一般に学協会と日本学術会議との関係は希薄になっている分野が多い。

・成功事例として日本医学会との連携の紹介（石川）。

・農学分野でも農学アカデミー、農学会との定期交流（澁澤）

・生物科学学会連合との連携の必要性（菊池） --- 次回報告

二部全体で情報を共有することが重要（部長）

(3) 「子供の放射線被ばくの影響と課題」について（参考資料 2）

23 期臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会の報告。発出からの経緯について報告があった（石川）

(4) 基礎生物学委員会の城石委員長から参考資料 3 に基づき、今年度が「健康・医療戦略」・「医療分野研究開発推進計画」の 5 年おきの見直し年にあたることから、日本人を対象としたゲノム解析規模の拡大、多層的・統合的なゲノム医療・精密医療研究の推進、推進のための環境整備についての提言「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」の発出手続きを進めている旨の説明があった。

(5) 長崎大学で建設中の バイオセーフティレベル 4（BSL-4）施設（石川）

周辺住民からの日本学術会議としての意見照会があった。今後関係する委員会とともに慎重に対応していく。

(6) 日本生命科学アカデミーへの加入のお願い（石川）

公益財団であり、二部の応援団 二部全体の活動へ支援している。是非加入を。

(7) 二部からの提言、報告の査読作業の連携会員への依頼（石川）

部長より、これまで二部からの提言、報告の事前査読は会員に限定して依頼してきたが、

専門性、迅速性を担保するため今後は連携会員へ依頼を拡大する提案があり、承認された。